

説教余滴 2020 年 9 月 20 日

秋は引退の季節。レギュラーになれなかったからプロの夢をあきらめようとしている学生の中には、まだ大きな伸びしろを残している選手もいるはず。他の選手の業と力を見て、諦めた若者も多いようです。野に埋もれたままの才能が、一つでも多く日の目を浴びることを願います。初志とは違う領域に、別の才能を見つけることも大切です。

「あきらめる」にも意味があります。<「あきらめる」とは「明らかに見る」こと>と禅僧・南直哉(じきさい)が『なぜこんなに生きにくいのか』(新潮文庫)で書いています。

「あきらめる」とは、元来、仏教用語で「明(あき)らめる」と書き、「明らかに見る」「明らかにする」との意味だったそうです。古代中国最初の辞典・字典『説文解字』には、「帝は諦(あき)らかにするなり。天下に王たるの號なり」とあります。

前述の南は、<目標を追求することも大事ですが、ある時点で「断念する」ことを知らないといけない>と論じています。目標や願望が達成されない時、その理由を明らかにし、納得して断念することのようです。

<それは絶望とは違う。(中略)いまの自分の力とその目標との距離を計る>。つまり、具体的に目標に近づくための方法なのです。

その名も『諦める力』(プレジデント社)という著者で、元陸上選手の為末大は先の「あきらめる」の原義を示した上で、<手段は諦めてもいいけれども、目的は諦めてはいけない>と書いています。為末自身、世界陸上でメダルを獲る 400 メートルハードルに行きつくまで、いくつもの競技から転向していた。

『転石苔むさず』と言われます。苔むすことは、実績、業績の蓄積、と考えるなら転石にならず、庭に、山中に盤踞すべきです。苔に覆われず、素肌の美しさを見せることを重んじるなら、一所に留まる必要はありません。